

第13回

- 講演者：本間 泰史 氏 (東京理科大学理工学部)
 - 題目：四元数ケーラー多様体上のボホナーワイゼンベック公式と固有値評価
 - 日時：平成 16年 11月 18日(木) 16:30 ～ 17:30
 - 場所：数学科セミナー室 4号館 3階

四元数ケーラー多様体とは、ホロノミー群が $(\mathrm{Sp}(n)\mathrm{Sp}(1))$ に含まれる $4n$ 次元リーマン多様体である。この多様体上にリーマン計量と幾何構造から定まる gradients と呼ばれる一階微分作用素が定義できる。例えば、四元数ケーラーディラック作用素やツイスター作用素である。この gradients の主表象と $(\mathrm{Sp}(n)\mathrm{Sp}(1))$ のリー環の展開環を関連づけることにより gradients に対する 普遍的ボホナーワイゼンベック公式を導く。そして、その公式から四元数ケーラー多様体上の 様々な消滅定理や固有値評価を与える。

[<6>]

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/seminar/2004/013>

Last update: **2017/11/17 19:40**

